

特集「エンタテインメントコンピューティング」の 編集にあたって

渡邊 恵太^{1,a)}

本特集号は、2020年8月29日(土)31日(月)に、オンラインにおいて開催されたシンポジウム、エンタテインメントコンピューティング2020〔実行委員長：柳田康幸(名城大学)、プログラム委員長：渡邊恵太(明治大学)〕と連動して企画しました。シンポジウムでは、結果的にオンライン時代のエンタテインメントをテーマに掲げることになりました。

2020年はパンデミックとともにスタートし、前例のない緊急事態宣言で大学や研究機関での対応も迫られる中、シンポジウム運営にも大きな影響を与えました。

シンポジウムの企画会議は、3月に開催したもののCOVID-19がどの程度の脅威を持つのかも含めて不確定で、当初はシンポジウム開催の8月末には収束している可能性を期待もあれば、学会の性質上延期もしくは中止の議論すらありました。加えて2020年はオリンピック開催予定の年でもあり、その動向も見守っていました。所属機関、オリンピックも、社会もすべてが不安と混乱の中になりました。

しかも企画当時はオンライン講義やリモートワークなどの経験は個人的にも社会的にもまだない状態でした。前例としてインタラクショナル2020シンポジウムが3月にオンライン実施しその方法は参考になったものの、エンタテインメントコンピューティングは、パンデミック以後のシンポジウムイベントとしては早い時期にあるもので、論文も集まるのか半信半疑でした。現地開催かオンライン開催は、6月初旬まで未定で、懇親会や基調講演といった企画も未定で進みました。

結果的には一定数の論文が集まりリモートワークやリモート講義慣れからzoomを使うことで対応できそうであること、通常あったデモ発表はなくし、口頭発表のシングルセッションで実施し、無事開催を終えました。

さて本特集号の企画もパンデミック下での募集となりました。例年特集している本特集号も、今回も特にテーマを限定せず、エンタテインメントコンピューティングに関する理論的・実証的研究、各種応用システム開発やコンテン

ツ制作等に関する論文を広く募集しました(2021年1月投稿締切)。その結果、本特集号には18件の投稿があり、5件の論文が採録されました(採択率28%)。

エンタテインメントコンピューティング領域の特徴として、芸術性や社会科学的観点から高く評価される研究成果の存在があります。これに該当する論文は、信頼性—有用性を軸とした工学的価値を重視した審査基準で評価すると、論文本来の価値が見えにくく、玉を捨てることになりかねません。今回の特集号もまた、エンタテインメントコンピューティング領域で先導的な立ち位置にいる研究者をスペシャルエディタとして招き、審査を行っていただきました。各スペシャルエディタは、採録の価値があると判断した論文については、推薦文を本特集号の編集委員会に付託します。編集委員会では、当該論文については減点方式の採点を避け、特集号の趣旨に照らし合わせて優れている部分に力点を置く論文審査手続きを採用しています。

さらに、本特集号が扱うエンタテインメントコンピューティング領域は一般の方々が目にしたたり体験したりすることが多い研究領域です。この領域の進展は、情報学の一般への波及効果も大いに期待できると考えられます。また、世界的なパンデミックによって生活様式の変更を余儀なくされ、デジタル技術を活用したりリモート飲み会のような新たな文化が生まれようとしており、まさに本領域の取り組みが産業社会での期待が高まることも予測できます。このような領域で学術的な進歩性を保つことは、世界における本邦のプレゼンスの向上にも大きく寄与すると考えられることから、今後も継続して注力すべきであると考えます。本特集号が、エンタテインメントコンピューティング領域のマイルストーンとして、当該領域に関係する読者の皆様にとって価値のあるものとなることを願っています。

最後に、本特集号にご投稿いただいた著者の皆様、編集にご尽力いただいた編集委員会の幹事の皆様、編集委員の皆様、スペシャルエディタの皆様、丁寧に査読を行っていただいた査読者の皆様、本特集号の機会と多大なる支援を与えていただいた論文誌編集委員会と学会事務局の皆様に、編集委員長として心より御礼を申し上げます。

¹ 明治大学

Meiji University, Nakano, Tokyo 164-8525, Japan

^{a)} keita_w@meiji.ac.jp

「エンタテインメントコンピューティング」特集号編集委員会

- 編集委員長
渡邊恵太（明治大学）
- 幹事
倉本 到（福知山公立大学），小泉直也（電気通信大学），杉浦裕太（慶應義塾大学），水口 充（京都産業大学）
- 編集委員
伊藤雄一（大阪大学），井村誠孝（関西学院大学），梶本裕之（電気通信大学），片寄晴弘（関西学院大学），北原鉄朗（日本大学），小坂崇之（神奈川工科大学），阪口紗季（東京大学），坂本大介（北海道大学），鈴木 優（宮城大学），高嶋和毅（東北大学），竹川佳成（公立はこだて未来大学），中野倫靖（産業技術総合研究所），中村聡史（明治大学），鳴海拓志（東京大学），平野砂峰旅（京都精華大学），福地健太郎（明治大学），真鍋宏幸（芝浦工業大学），三武裕玄（東京工業大学），棟方渚（京都産業大学），築瀬洋平（Unity Technologies Japan），山本豪志朗（京都大学）
- スペシャルエディタ
水口 充（京都産業大学），倉本 到（福知山公立大学），渡邊恵太（明治大学）